

企画提案書

1 芝浦港南地区（主に芝浦1～4丁目）の地域特性や現状の把握

芝浦港南地区（主に芝浦1～4丁目）の地域特性や現状について説明してください。階層別人口、用途地域、土地利用、道路・公園、橋りょう・運河の状況、防災上の特性など様々な視点により示してください。

1 芝浦港南地区（主に芝浦1～4丁目）の地域特性や現状の把握

震災復興訓練の企画にあたって特に配慮すべき地域特性等は以下のとおり。

① 地理的状況と市街地特性

- ・山手線田町駅東～芝浦運河までの125ha。埋め立てで形成された運河と橋梁が多い平坦な市街地。
- ・広い幅員の道路で整然とした街並み、工場やオフィス、倉庫などが多く、田町駅周辺に商店街・飲食店街がある。近年では工場・倉庫の跡地等で大規模な再開発が行われ、マンションが増加。特に芝浦アイランドがある芝浦四丁目では超高層住宅建設に伴う人口の増加が著しかった。
- ・用途地域では、路線式近隣商業地域80/400と芝浦4丁目一部の第二種住居地域60/400を除くと準工業地域60/400、全域が防火地域で高層建築物等の建設も可能である。

② 人口・世帯、年齢階層

- ・H31年住調では世帯数1.3万強、人口2.5万人強、H27年国勢調査では夜間人口密度178人/haに対し昼間は532人/haで都心の特性を示し、年齢別では65才以上人口は港区17.5%、区部21.5%に比して11.4%と低く、逆に15歳未満は15.4%と高く、集合住宅増加に伴う働き盛り世代と児童の増加が見られる。

③ 災害特性、防災対策

- ・地震に関する地域危険度は1、全域が「地区内残留地区」で建物倒壊や市街地火災は考えにくい。
- ・ほぼ全域で「液状化の可能性が高い」で、非対策建物の沈下や傾斜、ライフライン被害が起きる。
- ・津波は、「伊勢湾台風級の高潮と防潮施設機能不全、液状化で地盤50cm沈下の場合に3mを超える」可能性（第一波地震後70分）。これは周知が必要になる。
- ・避難所である学校を拠点に「芝浦小地区防災協議会」（町会4、自治会12、事業所14、他5、平成9年6月結成）があり、防災訓練や講習会、救命・応急救護訓練、避難所運営訓練、防災講演会等の活動が活発で第2回東京都防災隣組認定を受けている。

④ まちづくり課題

- ・拠点地区の開発・交通環境の整備と並んで、人口増に対応する生活環境形成（子育て支援、健康環境やコミュニティ増進）、地域特性をふまえた防災性向上（橋梁耐震、高層対策、外来者対策、液状化対応、津波対策、浸水対策等）、水辺空間の活用、緑と水のネットワーク等がある。

2 震災復興訓練に向けての課題と配慮事項

一般的な市街地ではなく、埋め立て地の新市街地にできた新しい集合住宅居住者のコミュニティである。訓練を通じて、①地域特性をふまえた災害イメージの共有（液状化や津波等）、②この地に即した復興イメージの共有（避難不要、生活継続）、③災害対策や準備の共有（建物単位の自助、事業所と地域相互連携等）④復興ビジョンの共有（例 歩行・自転車・公共交通等、運河や緑地の活用、コミュニティ育成等）⑤行政として軽被害地での復興の進め方等がある。

※ 印刷はA4サイズとしてください。文字のサイズは原則として11ポイント以上とします。

※ 1枚を超える場合は枚数を追加することは可能です。ただし、様式6から様式7-4まで合わせて全体で5枚以内としてください。

企画提案書

2 芝浦港南地区（主に芝浦1～4丁目）の地域特性等を踏まえた訓練内容の提案

芝浦港南地区（主に芝浦1～4丁目）の地域特性や現状（様式7-1で取りまとめたもの）を踏まえ、主にワークショップ形式で行うグループワークにおける訓練内容、方法等を2つ以上提案してください。参加区民にとって取り組みやすく、また訓練成果が実感できるものとなるような内容を提案してください。

本地区の訓練で期待される成果

- ・港区等が進める復興手順や方策について理解する
- ・芝浦地区の被害イメージを共有し、復興課題を共有する
- ・復興課題の解決に向けて、日頃からの復興への備え（事前復興）を確認する。
- ・芝浦地区が被災した場合の復興の進め方を共有し、地区防災協議会の役割を確認する。
- ・以上を通じて日常的な区民・事業所、自治会や町会等によるコミュニティ増進の手がかりを得る。
- ・参加者には自治会の防災マニュアルを（復興という視点を入れて）強化する手がかりを与える。

プログラム作成の留意点

- ・区域が広くまち点検等には車移動等工夫が必要・高層住宅中心に防災組織は活発である。
- ・居住継続や事業再開等が大きい関心事になる。
- ・子どもや働き盛り世代が多い。

本訓練で提案するプログラム（まち点検以外は平日夕方の実施が可能）

全3回とし、基本的な学習とグループ作業（訓練）を組み合わせた連続ワークショップとする。3回は、被災直後数日間、被災後1～3カ月、被災3～6カ月の震災の時間経過を想定する。

A案（まち点検を行う訓練） —参加者がこれまで防災知識が十分でない場合には効果的

第1回 まち点検で被災イメージや課題把握（土日午前）

学習会：臨海部の被害や復興マニュアルの学習
訓練1：＜まち点検＞現場を歩いて災害要因や復興資源、復興課題把握

第2回 被災後の生活や事業所の継続を考える（平日）

訓練2：集合住宅や事業所の＜復興シナリオ＞づくり
訓練3：課題別検討（居住継続、仮住まい、コミュニティ維持、事業継続等）

第3回 復興の進め方と復興への備えを検討する（平日）

訓練4：＜復興の進め方と復興のあり方＞をまとめる（ワールドカフェ方式）
訓練5：＜復興の備え＞（自助・共助の備え、相互扶助等）

B案（まち点検を省く訓練） —すでに防災リーダーが育っている場合等には効果的

第1回 図上訓練で災害と復興の課題を考える（平日）

学習会1：臨海部の被害や復興マニュアル等を学習
訓練1：＜図上訓練＞地図と画像をもとに被災イメージをまとめる
訓練2：＜復興シナリオ＞時間経過に即して集合住宅等の課題を整理する

第2回 被災後の生活や事業所の継続を考える（平日）

学習会2：臨海部高層住宅の先進対策事例を学ぶ
訓練3：居住継続、仮住まい、事業継続等課題別検討（模型を使ったデザインワークを含む）

第3回 芝浦地区の復興の進め方と復興への備えを検討する（平日）

訓練4：＜復興の進め方と復興のあり方＞（ワールドカフェ方式）
訓練5：＜復興の備え＞をまとめる（自助・共助の備え、相互扶助等）

※ 印刷はA4サイズとしてください。文字のサイズは原則として11ポイント以上とします。

※ 1枚を超える場合は枚数を追加することは可能です。ただし、様式6から様式7-4まで合わせて全体で5枚以内としてください。

企画提案書

3 訓練当日における進行管理。

各回の訓練において、効率的に訓練を実施することができるよう、全体進行役の役割や訓練全体の時間管理、各グループファシリテーターの役割や意見の取りまとめ方法等を提案してください。なお、仕様書（案）6 業務内容（5）訓練当日における進行管理をもとに、役割ごとに示してください。

各回のグループワークの進行イメージ



※全体進行役は業務責任者、記録は担当技術者が担当する。

※進行補佐（ファシリテーター）は、兼任する全体進行役及び外部協力者が担当する。

全体進行役、記録

全体進行役1名（ファシリテーター兼任）、記録担当1名を配置する。

- **全体進行役は**、これまでの震災復興訓練の経験等を踏まえ、区担当者との協議の上、訓練内容を確定し、時間配分、担当者、机等の配置、事前準備物等を含む「芝浦港南地区震災復興訓練の手引き」（訓練シナリオ）を各回とも作成し、ファシリテーター及びスタッフ等に周知する。
- **全体進行役は**、訓練当日の進行及び時間管理を行い、必要に応じて全体進行役補佐はこれを補佐する。
- **記録担当は**、全体の検討の様子等の画像撮影や全体のフォローを行う。
- 全体進行役又は補佐は、訓練後、ファシリテーターから提出されたグループの状況や成果を踏まえ、記録（かわら版）を作成する。

各グループファシリテーター、スタッフ

ファシリテーターは各グループ1名とし、これまでワークショップや震災復興訓練の経験者をあてる。スタッフ1名（若手専門家や大学院生）と一緒に各班の検討を進行する。

- **ファシリテーターは**、「芝浦港南地区震災復興訓練の手引き」（訓練シナリオ）に沿って、質問を投げかけたり、カード等を提示して参加者の発言を引き出し、発言が偏らないよう留意しながら、付箋紙やシート等を用いた「書き出し」を行い、企画提案書2の訓練ごとに要点をまとめていく。また、訓練後は速やかにグループの状況や成果をとりまとめ、全体進行役に提出する。
- **スタッフは**、文具の準備や書き出し補助等を行いながら、高齢の方等の手助けが必要な参加者のサポートを行う。

※ 印刷はA4サイズとしてください。文字のサイズは原則として11ポイント以上とします。

※ 1枚を超える場合は枚数を追加することは可能です。ただし、様式6から様式7-4まで合わせて全体で5枚以内としてください。

企画提案書

4 過去の実績について

過去5年間で受注した震災復興まちづくり模擬訓練および類似の訓練において、その訓練内容や工夫した点、地域住民からの訓練に対する評価等について、説明してください。

類似の訓練① (港区) 震災復興まちづくり模擬訓練

◆概要 (平成29年度) 港区の白金高輪地区、木造密集地や住工混在地を含む一帯である白金五丁目・六丁目地区を対象とした訓練。

(平成30年度) 港区の白金高輪地区、目黒通り北側の住宅地である白金台四丁目地区を対象とした訓練。

◆訓練内容や工夫した点、地域住民からの訓練に対する評価等

・ガイダンス1回(体験者の講演)+3回の訓練で構成した。小学校の跡地活用、公園を中心とした被災生活の維持等、その地区の特性に即した、今後の地域づくりやまちづくりの取り組み課題が明らかになった。参加者の多くにとって初めての体験で好評であり、各町会の活動の共有や地域リーダー育成に役立った。



↑各回の記録をニュースにとりまとめ



↑まち歩き・点検の様子



↑体験者を招いての講演



↑学識経験者による講義・講評

類似の訓練② (首都大学東京) 八王子市元横山地区地域協働復興訓練

◆概要 (平成28年度) 八王子市の要請で首都大学東京が行った訓練。郊外住宅地での復興を考える全3回の訓練の企画・運営を支援した。

◆訓練内容や工夫した点、地域住民からの訓練に対する評価等

・「復興」という概念を理解することを重点とした。事前に取り組みされていた被災直後の取り組みの視点に復興の負担を軽減するための事前の街づくりへの関心が高まり、翌年度の市内の木造住宅密集



↑各回の記録をニュースにとりまとめ



↑まち歩き・点検結果の発表



↑課題ごとの検討の様子



↑キットを使った検討の様子

※ 印刷はA4サイズとしてください。文字のサイズは原則として11ポイント以上とします。

※ 1枚を超える場合は枚数を追加することは可能です。ただし、様式6から様式7-4まで合わせて全体で5枚以内としてください。